

## 当院における人工膝関節全置換術後の退院可能日数と術前活動能力との関係

○当院で人工膝関節全置換術を行った患者様の、手術前の膝の状態（膝を曲げる角度・腫れの状態など）や歩行状態と退院可能な状態（杖歩行の獲得・階段昇降習得）となる日数の関係を調査しました。

○対象：76名(男性16名，女性60名)，平均年齢73.4±6.5歳

○検討項目：日展会膝関節治療成績判定基準（JOAスコア）の総計  
JOAスコア各項目の点数，10m歩行の秒数，歩数  
歩行率，歩行速度



### ○結果

今回の調査から、手術前のJOAスコア歩行能力，総計，歩数，歩行速度が手術後の経過に影響を及ぼす可能性があることがわかりました。関節可動域や腫れなどの機能的要素よりも歩行能力などの能力的要素との関係が強く，手術前の活動能力が高い程早く退院可能なレベルに達し，特に手術前の歩行能力と密に関連していました。

つまり，手術前の歩く速さが遅く，歩数が多い(歩幅が狭い)程，退院可能な状態を獲得するのに時間を要し，入院期間も長くなる傾向にあるといえます。

膝の痛みが強くて日常生活に支障を来す，痛くて歩行が困難となった場合はあまり長期間我慢をして生活を続けることは避け，早めに専門医を受診することをお勧めします。



リハビリテーション部 岡澤 武士

平成23年7月 第23回 日本運動器科学会参加

平成23年9月 第30回 関東甲信越ブロック理学療法士学会 参加